

第 80 回 応用物理学会 秋季学術講演会

分科企画シンポジウム(8. プラズマエレクトロニクス)

プラズマ誘起生体反応の機序解明最前線

～何が何処まで解ってきたか～

日時: 2020 年3月 13 日(金) 13:30~17:00(予定)

会場: 上智大学・四谷キャンパス セッション: T16

放電プラズマのバイオ・医療応用は、科研費大型予算の獲得やプラズマバイオコンソーシアムの発足により学理の体系化が加速する一方、日本主導によりプラズマ止血機器の国際標準化も進んでいる。本シンポジウムでは、プラズマに対する生体応答の基礎から応用まで何が何処までをわかってきたかを概観し、その今後を議論する。

招待講演

「プラズマ科学が拓く、糖鎖修飾の形作る荷電秩序とその生物機能の理解」

池原 讓(千葉大学)

「プラズマ照射による新規レドックスシグナル形成とその生理学的効果」

西田 基宏・田中 智弘(自然科学研究機構)

「膀胱癌に対する低温大気圧プラズマを用いた新規治療法」

福原 秀雄(高知大学)

「プラズマ活性溶液による細胞死の作用機序」

田中 宏昌(名古屋大学)

「バイオ応用におけるプラズマ誘起液中化学反応の反応素過程」

北野 勝久(大阪大学)

「プラズマ複合刺激によるゲノムインテグレーションフリーで自発的な細胞による外部分子/遺伝子取り込みと農水産分野への応用」

神野 雅文(愛媛大学)

「パルスパワーの農業・食品応用における作用機序」

高木 浩一・高橋 克幸(岩手大学)

世話人:

近藤 博基(名古屋大), 呉 準席(大阪市大),
古閑 一憲(九州大), 栗田 弘史(豊橋技科大)

応用物理学会

プラズマエレクトロニクス
分科会

Division of Plasma
Electronics